

施策評価表

京 都 府 南 丹 市
作成日：平成23年7月1日

平成23年度(平成22年度実施)

評価施策名	3 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	施策CD	13	施策主管部	教育委員会	部長名	大野 光博
政策名	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る			施策関係部	企画政策部・八木支所・美山支所		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
生涯学習活動事業数	事業	20	29	23	22	24	25
スポーツ・レクリエーション施設の利用者数	人	227,789	208,938	228,500	206,001	229,000	230,000
社会教育施設の利活用者数	人	89,505	91,600	89,800	95,222	89,900	90,000
文化サークル数	団体	159	159	159	113	159	160

- 市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送れる生涯学習社会の実現。
- そのためには、市民自らが学び、自己を高め、さらに学んだことを社会で生かしていく環境(生涯学習社会)の実現をめざす。
- 都市部の生涯学習社会の実現と違う地域コミュニティ活動の持続した社会の実現

1 南丹市の現状(課題)

- 市民一人ひとりが進んで学習に取り組み、自ら学び高めている割合が低い。
- 積極的に運動・スポーツに自ら取り組んでいる割合が低い。
- 文化・芸術に普段の生活の中で触れる機会が少ない。
- 地域が広域すぎるため、下駄履きのままで気軽に参加できない。

- (現状)
- ・生涯学習活動事業数 23 事業(平成20年) 同参加者数6,211人
 - ・文化サークル数 157団体(平成20年)
 - ・総合型地域スポーツクラブ 2クラブ(平成20年)
 - ・スポーツ、レクリエーション施設の利用者数 208,779人(平成20年)

2 対策をしなければどうなるのか

- 社会生活や職業等に対して、十分な対応をすることができなくなる。
- 運動・スポーツを続けない場合、健康と体力を維持することができない。
- 病気や怪我を負うことになり、日常生活が困難になる。
- 文化・芸術の振興が図られないと、精神的な充足と心豊かな暮らしが失われる。

3 それは何故おきたのか

- 市民が自ら進んで学習に取り組めていない。
- 自主的に学べる体制が整っていない。
- 運動やスポーツを身近に、かつ気軽に行える環境がない。
- 文化・芸術については、触れる機会がなかったり、時間的な余裕がない。

4 それらを解決するために何をするのか

- ①市民が自発的に生涯学習活動に取り組む体制を整える。
 - ・公民館、図書館などの充実 ・学習機会の提供
 - ・社会教育関係団体の育成、支援
- ②市民のスポーツ・レクリエーション活動を活性化させる。
 - ・各スポーツ施設、設備の充実 ・競技スポーツの振興
 - ・総合型地域スポーツクラブの育成 ・スポーツ活動に関する指導者の育成
- ③文化芸術を通じて日々の暮らしにうおいを与える。
 - ・文化芸術の振興

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

		単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)		千円	215,178	258,046	230,950	178,881	176,675
財源内訳	使用料・手数料	千円	18,123	18,245	27,940	23,487	16,585
	国・府支出金	千円	2,488	97,287	8,041	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	194,567	142,514	194,969	155,394	160,090
職員従事人数	人・年		21.18	37.32	32.09		
人件費	千円		96,951	133,792	134,466		
事業費総額	千円		312,129	391,838	365,416		

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】 全 46 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
講座開設事業(講座開設事業)	14,327	14,327	13,894
青少年スポーツ育成事業(青少年スポーツ育成事業)	2,947	2,936	2,610
国民文化祭推進事業(国民文化祭推進事業)	15,538	8,917	8,638
地域活性化・きめ細かな対策事業(地域振興関連施設改修事業)	3,184	1,644	1,505
施設管理運営費(園部公民館運営費)	20,585	11,174	3,312
施設管理運営費(八木公民館運営費)	9,028	8,300	4,855

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】

*生涯学習活動事業数と社会教育施設の利用者数は目標値をクリアし、文化サークル団体は現状維持となっているが、スポーツ・レクリエーション施設の利用者数は目標値を下回った。
*文化サークル数などは、単に団体が増えれば活性化するというものでなく、現時点では合併後の交流によってようやく顔の見える活動となっており、趣を同じくするサークル等は統合するほうが活動がより良くなる場合もある

【改善の方向性】

- *市民の自発的な学習活動が展開できるよう方策をさぐりながら検討する
- *社会教育施設や社会体育施設の今後のあり方について方向性を示す
- *指定管理について、必ずしも公募でなければならないものではないので、今後施設の利活用目的に照らして検討が必要
- *各種委員の選出について、公募での登用も行い、より市民の意見を反映させる
- *公民館施設は2施設あり、本館と分館に分けて施設の管理運営できるよう検討する
- *図書室について、八木と美山の図書室の場所や運営形態について検討する

【評価を受けて取り組んだこと】

【総合評価】

*生涯学習活動事業数と社会教育施設の利用者数は目標値をクリアし、文化サークル団体は現状維持となっているが、スポーツ・レクリエーション施設の利用者数は目標値を下回った。
*文化サークル数などは、単に団体が増えれば活性化するというものでなく、現時点では合併後の交流によってようやく顔の見える活動となっており、趣を同じくするサークル等は統合するほうが活動がより良くなる場合もある

【改善の方向性】

- *市民の自発的な学習活動が展開できるよう方策をさぐりながら検討する
- *社会教育施設や社会体育施設の今後のあり方について方向性を示す
- *指定管理について、必ずしも公募でなければならないものではないので、今後施設の利活用目的に照らして検討が必要
- *各種委員の選出について、公募での登用も行い、より市民の意見を反映させる
- *公民館施設は2施設あり、本館と分館に分けて施設の管理運営できるよう検討する
- *図書室について、八木と美山の図書室の場所や運営形態について検討する

【今年度の評価】

【総合評価】

①目標の達成状況
生涯学習活動事業については、現状維持であるが、施設利用者数は目標値を超える実績となっている。
一方、スポーツレクリエーション施設利用者数は目標値を下回る結果となった。

②目標値や施策の考え方の見直し

文化サークル数などは、単に団体が増えれば活性化するというものでなく、現時点では今後の交流によって、ようやく顔の見える活動となっており、趣を同じくするサークル等は統合する方が活動がより良くなる場合もある。

【改善の方向性】

①今後の方向性

- 市民相互のふれあい、学びあいを深める社会教育の充実
 - ・市民の人権意識を育む学習機会の充実
 - ・親の育ちを支援する学習機会の充実
 - ・市民スポーツの裾野を広げる取り組みの推進

②各事業の対応

生涯学習の視点にたつて、生命の尊さ、個性の尊重、他人との共生など人権尊重の理念や同和問題、女性、子ども、高齢者、障がいがある人、外国人といった様な人権問題について正しい理解と認識を深めための学習機会の充実

子どもから大人まで生涯にわたってスポーツに親しむための学校体育館の開放や地域指導者によるスポーツ活動の充実